

「アウトフィットネス」のイベント運営における 感染症予防ガイドライン

NPO法人日本アウトフィットネス協会

設定の目的

屋外での健康増進活動の普及を目的とするNPO法人日本アウトフィットネス協会は、パンデミック発生時におけるイベントを開催するうえで、最新の情報の収集につとめ、イベントへの参加者並びにスタッフボランティアの健康と安全を最優先に確保するため次のガイドラインを設定する。

1 基本的な事項

- 1) 参加者の緊急連絡先等の個人データを把握して適切に管理する。個人データの収集ができない方の参加は認めない。
- 2) 感染症の状況により国または開催地の自治体が設定する規制や要請に従って参加者数を制限する。
- 3) 密集、密接、密着の3密を極力さけた運営をする。
- 4) 伝染病予防に必要とされるマスク等の着用を参加者に義務づける。
- 5) 国、自治体など関係機関から中止または延期要請が出た場合、参加者に直ちに周知してその要請に従う。
- 6) 参加者にはイベント前後の指定期間における体調の自己管理を実施してもらい、日頃からご自身の健康状態を把握していただく。
- 7) 未成年や幼児など補助が必要な参加者の保護者または介助者以外の応援者の来場を原則禁止する。
- 8) インターネット、SNS等を利用して対面や直接接触を避けた運営につとめる。

2 事前事項

- 1) 申込み時に通常連絡先と緊急時連絡先を収集する。
- 2) 原則としてイベント2週間前から「健康管理表」で体調管理をやってもらう。
- 3) 以下の方には参加を控えていただくものとする。
 - ①体調がすぐれない方（発熱が37.0℃以上、カゼに類似した症状）

- ②家族や同僚などに濃厚接触者に感染が疑われる方がいる方
 - ③過去14日以内に入国規制、入国後の観察機関が必要とされている方
 - ④感染国地域への渡航または当該在住者との濃厚接触がある方
- 3) 上記の方は必ず事務局に連絡、事務局からの指示に従っていただく。
- 4) 参加者リストを整備し、厳重に保管しておくものとする。

3 イベント当日

- 1) 受付は整列していただき、前後2mのソーシャルディスタンスを確保する。
- 2) マスク着用、受付時の検温、こまめな手指の消毒を必ず行うものとする。
- ①受付デスクと記録証デスクは透明フィルムシートで隔離する。
 - ②当日の受付で体温が37.0℃以上の方はメディカルスタッフの問診を行い、参加できるかどうか判断する。
- 3) 宣誓書の提出
- ①健康アンケートに記入して誓約書に署名して提出してもらおう。
 - ②筆記具は使い捨てを使用する。
- 4) 密閉・密集・密接の「3密」を徹底して回避するため、原則として更衣室などの閉鎖空間の利用はしない。常設の更衣室シャワー室等がある場合、一度の利用者数を2～4人に制限する。
- ①説明会はYouTubeによるオンライン中継を実施、本部周辺での密を回避する。
 - ②競技協議開始は2列縦隊で2秒ごとに順番でスタートしていくショットガンスタートとして密集を避ける。
 - ③給水所は冷水、スポーツドリンク、栄養補助食を3つのブロックに分ける。
 - ④ゴール後、間隔をあけて列を作って並び、記録証を受け取る。
 - ⑤表彰式など密集になる行事は行わない。
 - ⑥近距離での会話や大きな声での歓談は禁止する。
 - ⑦全員にマスク着用。競技中も可能な限り着用してもらおう。
 - ⑧選手と接触するスタッフはマスクとフェイスシールドを着用する。
 - ⑨スタッフは選手の誘導指示にハンディフォンを使用する。
 - ⑩持込んだゴミ、空のペットボトルなどは各自が持って帰る

4 終了後について

- 1) 大会3日後、参加者に一斉メールし、体調に異変があった方には報告してもらおう。
 - ① 「健康管理表」を参考にして大会後14日間の観察をお願いする。
 - ② 14日後に大会参加者全員に最終確認メールを送り健康状況を確認する。
 - ③ スタッフボランティアも健康状態を報告してもらおう。
 - ④ イベント関係者全員の安全を確かめてから公式イベントページに「大会終了宣言」は宣言する。
- 2) 大会参加者に異常が発生した場合、すみやかに関係機関と所轄の保健所に報告するとともに保健所に指示に従って感染拡大予防対策に協力する。
同時に、参加者、スタッフボランティア全員に報告するとともに、イベントで使用した備品と事務局を消毒する。

以上